

⑪ 筒森見本林から清澄寺へ 東大演習林の林業施業を学ぶ

【概要】南房総の豊かな自然 暖温帯林で体も心もリフレッシュ！！

清澄山は、370mの妙見山とその周囲一帯をさす。房総丘陵の東側を占め、西の鋸山と結んで房総分水嶺を作る。山頂の清澄寺は、日蓮が修行した寺で有名である。境内には、樹高48m、目通し周囲15mという国指定の天然記念物「千年杉」がある。会所の森は、大多喜町から勝浦市にまたがる398haの広大な森林である。会所の森のシンボルツリーであるモミの木その他、ツガ等の針葉樹、コナラ・ヤマボウシ等の落葉広葉樹、カシ・シイ・ヤブツバキ等の常緑広葉樹が交した天然生林とスギ・ヒノキの人工林。モリアオガエルやヒメハルゼミが生息している。

【森林の特徴・見所・歴史文化】

妙見山一帯は見事な杉林で、北と南に広がる見事な森林は、大学演習林の第一号地として、本多静六博士の推挙により、東京大学の演習林に指定された。ここでは、原生林の保護、樹種の調査、マツとスギの二段林施業等、多様な森林研究が行われている。清澄山は南房総国定公園に含まれ、北側は暖帯植物、南側には亜熱帯植物が育成する植物分布境界になっている。モミ・ツガ等の針葉樹、スダジイ・カシ類の広葉樹林、スギ・ヒノキの人工林が織りなす林道は豊かな植物相に恵まれ、関東ふれあいの散策コースに指定されている。

【ルート概要】

会所の森に位置する筒森自然観察教育林で樹木を観察後、車で親水公園まで移動、公園下の川回しの跡を見学、再び林道に戻り、一路アジサイ寺下の休憩所を目指す。昼食後は、東大演習林の一杯水林道（関東ふれあいの道—アジサイの道）に入る。清澄寺の後背部、元清澄山の端を通り、清澄寺へ。清澄の大杉を見て、東大演習林作業所脇の駐車場がゴールである

【コース紹介】

●筒森見本林（自然観察教育林）：昭和27年開設 面積2.49ヘクタール。旧千葉営林署が職員教育のために全国から多種の樹木を植林した筒森見本林（自然観察教育林）がある。シンボルツリーのもみの木その他、50科154種類の樹木が展示

されている。平坦で歩きやすく、プレート付きで解説しているので森林浴をしながら、自然学習ができる。

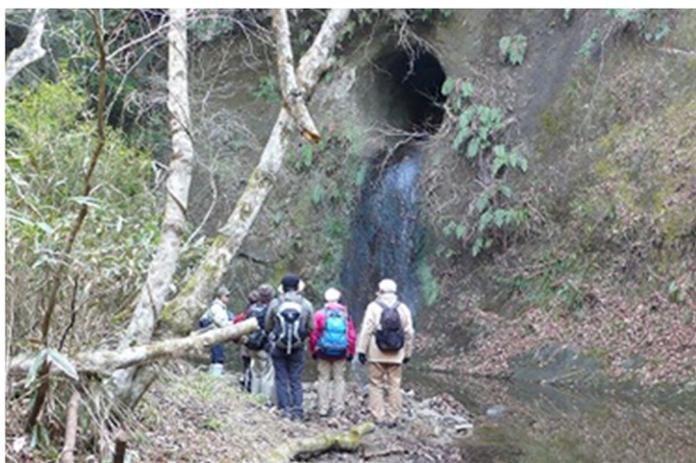
●親水広場：筒森見本林から2kmほどの場所にあります。養老溪谷の上流に位置し、流れが緩やかで、水中が見渡せます。緑に囲まれた溪流沿いに遊歩道が周回し、川回しの跡等が観察できる。約10分～15分ほどの行程。サワガニ・カガエル・小魚等の生き物を観察できます。

●一杯水林道の林業施業：針葉樹林・広葉樹林の織りなす山道を歩きながら、多様な森林研究・林業施業の試みを見ることができる。「マツ・スギの巣植え」「間伐の効果」肥料木としての広葉樹 ハンノキ・ハギ・アカシア等の植栽が実施されている。

●清澄の大杉：国指定天然記念物（1924・大正13年指定）。平成18年の調査結果：樹高 48m、枝下高 10m、胸高周囲 15.0m、根元周囲 17.5m。天然に自生したものか、植栽されたものかについては明確な資料はない。宝亀2年（771年）に清澄寺創立したときに植えられたと伝えられ、別名「千年杉」といわれる。近づき仰ぎ見ると、今なお樹勢旺盛で、濃緑の葉が積み重なりのかかるような迫力である。梢は離れると彼方に霞んで見える。全国の巨木スギの中で第4位、単木としては第2位（縄文杉が1位）と云われる。



筒森見本林から清澄寺ルート図



親水公園 川回しの跡



一杯水林道 (東大演習林) 入口



林業施策の看板「巣植え」



見晴らしの良い坂道からヤッホー

(注意1)このルートはかつて道迷いで大騒ぎになったコース。樹林の中で見通しが効かず、正規ルートと見誤る脇道や踏み跡、人の道と区別がつかない獣道などが数多くある。特に晩秋の日の短い時期では、一端迷うと遭難事故になりかねない。道をよく知る者との同行など慎重な行動が必要。

(注意2)ヤマビルの生息地である。十分な対策が必要。

コースで見られる主な植物

【木本】イヌガシ、ヤブニッケイ、コウヤボウキ、マルバウツギ、ヤナギイチゴ、イチイガシ、オニシバリ（別名 ナツボウズ）、アリドオシ（オオアリドオシ）、モチノキ、クマイチゴ、クサアジサイ、ミヤマトベラ、バリバリノキ、クスノキ（天然木）、イヌビワ、ヤマグワ、タブノキ、クマノミズキ、ガマズミ、アブラギリ、アカメガシワ、ムラサキシキブ、タラノキ、ヌルデ等

【草本類・シダ類】アジサイ、アキバギク、ダイヤモンドソウ、キッコウハグマ、イワタバコ、ウラジロ、ホソバカナワラビ、カンアオイ、ヒヨドリバナ、シラネセンキュウ、シタキソウ（房総半島が北限）、ホトトギス類、リュウノウギク、センニンソウ、ルイヨウショウマ、メドハギ等

【一口メモ】巣植え

針葉樹の群状に更新・生育しやすい特性と広葉樹と混交しやすい特性を活かし、「巣植え方式」を採用した。巣植えでは個体毎の間隔を狭めた針葉樹の巣を形成し、その巣と巣の間隔を広げることにより、造林する区域全体の植栽本数を削減し、広くあいた巣と巣の間に天然更新する広葉樹を育成する。植栽本数を削減し、低コスト化することに加えて、針広混交林化も併せて図ることを目的とした。

The diagram illustrates the 'nest planting' method. It shows a grid of conifer trees (represented by green triangles) with a spacing of 7.5m between rows and 1.2m between individual trees within a row. A central area, labeled '天然 広葉樹 巣' (Natural Broadleaf Tree Nest), is shown with a red circle around it, indicating the space reserved for natural regeneration of broadleaf trees. The overall spacing between the 'nests' is 7.5m.